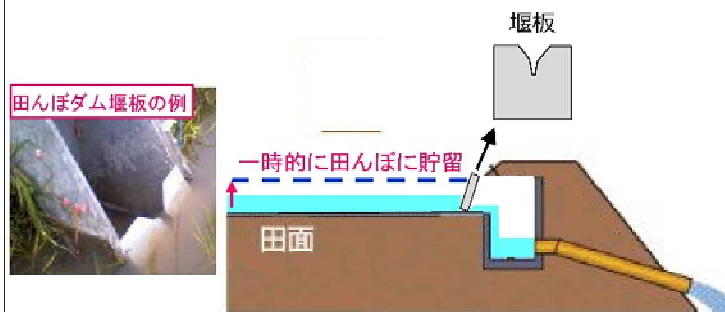


○ 都市・市街地の近傍や上流域には、水田が広がり、多くの農業用ダム・ため池・排水施設等が位置している。これらの農地・農業水利施設の多面的機能を活かして、あらゆる関係者協働の取組である「流域治水」を推進する。

水田の活用（田んぼダム）

○ 田んぼダム（排水口への堰板の設置等による流出抑制）によって下流域の湛水被害リスクを低減。



【施設の整備等】

○ 水田整備、田んぼダムの取組促進

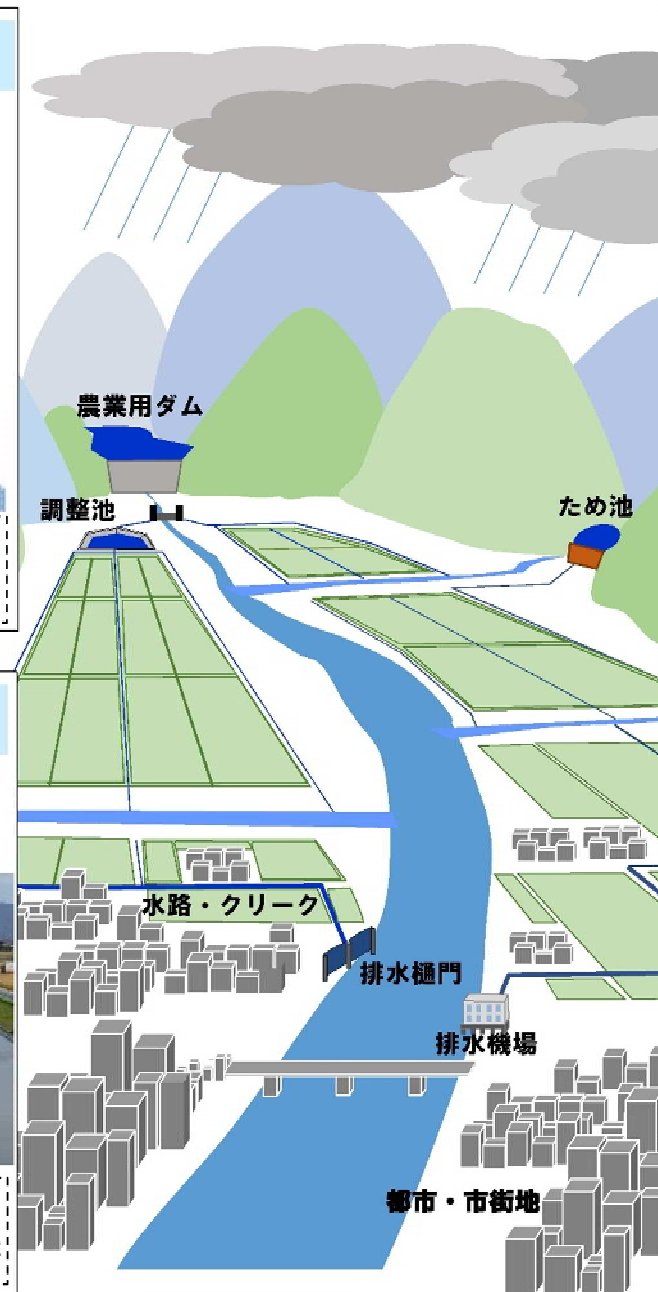
排水施設等の活用

○ 農業用の用排水路や排水機場・樋門等は、市街地や集落の湛水も防止・軽減。



【施設の整備等】

○ 老朽施設改修、ポンプ増設、降雨前の排水操作等

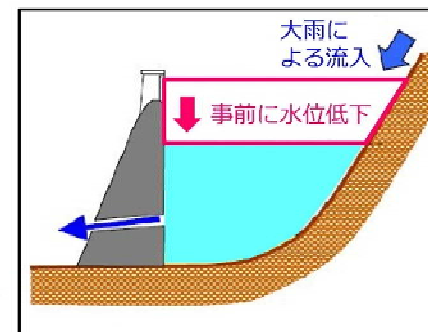


農業用ダムの活用

○ 大雨が予想される際にあらかじめ水位を下げる等によって洪水調節機能を発揮。

○ 降雨をダムに貯留し、下流域の氾濫被害リスクを低減。

〔各地区の状況に応じて、放流水を地区内の調整池等に貯留〕



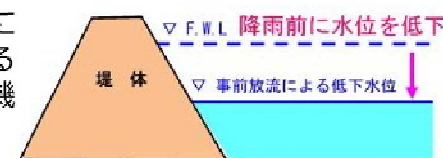
【施設の整備等】

○ 施設改修、堆砂対策、施設管理者への指導・助言等

ため池の活用

○ 大雨が予想される際にあらかじめ水位を下げる等によって洪水調節機能を発揮。

○ 農業用水の貯留に影響のない範囲で、洪水吐にスリット（切り欠き）を設けて貯水位を低下させ、洪水調節容量を確保。



【施設の整備等】

○ 堤体補強、洪水吐改修、施設管理者への指導・助言等

- ・近年、局地的な集中豪雨が頻発する傾向が高まる中、治山事業・森林整備事業による防災・減災に取り組んできている。
- ・今後、気候変動がより一層激化することが見込まれることを踏まえ、「流域治水」の取組と連携し事業を推進していく。

■治山事業の実施状況について

◇山地災害等による荒廃地の復旧するために治山事業を実施



【治山ダム工（越前市中津原）】



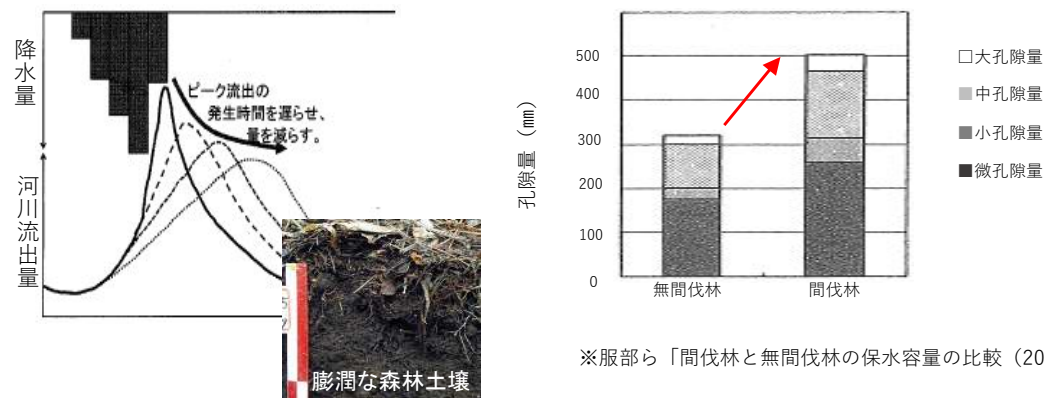
【山腹工（丹生郡越前町下山中）】

■森林整備事業の実施状況について

間伐の実施で森林土壌の孔隙量が保持



森林土壌によりピーク流出量は減少



※服部ら「間伐林と無間伐林の保水容量の比較（2001）」

※玉井幸治「森林の持つ『洪水災害の軽減機能』について」山林第1635号（2020）」